

夏の野の

繁みに咲ける

姫百合ひめゆりの

知らえぬ恋は 苦しきものぞ

おとおものさかのうえのいらつめ
大伴坂上郎女



「夏の野の繁みに、ひっそりと咲く朱い姫百合の花。

私の想いもまるでその姫百合のよう。

届かない恋は、苦しいものです。」

片想いをしたことがありますか。

届かない想い、知られてはいけない恋。

相手に届かぬ苦しさに身を焦がしたのは、万葉の人々も同じでした。

夏の生い繁る深い草むらの中に、すつくと立ち上がる姫百合の花。

ひそかな、けれどもその凛とした姿は、恋する心に似ていると

坂上郎女は感じたのでしょうか。

「立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花」

というのは、江戸時代頃からよく見かけるようになった諺で、ことわざ

日本の美しい女性の佇まいを例える言葉です。

暑い夏、風にそよぎ、しなやかに咲き誇る美しい百合の花。

山百合、笹百合、鹿の子百合。鬼百合、姫百合、鉄砲百合。

百合は香りも素晴らしいものも多く、たくさん種類があります。

あなたのお気に入りの百合は、どんな百合ですか。

（万葉集 卷八 一五〇〇）

花万葉



A star lily
is now blooming under cover
of thick summer grass.
Like the lily
my love is hidden with sweet pain.

